

2020 年度 事業計画書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

I	2020 年度事業計画 事業の体系図	· · · · 1
II	2020 年度事業計画一覧	· · · · 2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営				
ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催				
■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等				
【いわさきちひろ展】	いわさきちひろ 子どものしあわせ—12年の軌跡	ちひろが1963年から没する1974年までの12年間に渡って描き続けた雑誌「子どものしあわせ」の表紙絵の仕事は、この間のちひろの画業の変遷が示されていると同時に、画家としての様々な試みの場でもあり、創作意欲を開花させ多くの代表作を生み出した。1963年の最初の作品から絶筆「あかちゃん」まで、原画とピエゾグラフ、当時の貴重な雑誌や資料とともに、その軌跡をたどる。	3月1日～5月17日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの花鳥風月	ちひろは身近な自然に親しみ、移ろう季節の表情や風物を画面のなかにとらえている。四季折々の草花、流れる雲や夜空の月、小鳥や蝶…日本では古来より「花鳥風月」を重要なテーマとしてきたが、みずみずしい感性で自然をとらえたちひろの絵のなかにも、日本的な美意識は脈々と受け継がれている。本展では、四季のなかで遊ぶ子どもを描いた代表作や絵本『あめのひのおるすばん』を展示し、自然をいつくしむ感性や構図にみられる表現など、日本の伝統的な美術との接点を探る。	5月21日～8月2日	ちひろ美術館・東京
	こんにちは！『窓ぎわのトットちゃん』	黒柳徹子がトモ工学園で過ごした子ども時代を書いた『窓ぎわのトットちゃん』は、ちひろの絵とともに、日本のみならず、世界各国で数多くの言語に翻訳され、国を超えて広く愛されている。ちひろの描いた生き生きとした子どもたちとともに、トットちゃんのエピソードを紹介し、トットちゃんの世界を体験できるワークショップなども開催する。	8月6日～10月25日	ちひろ美術館・東京
	子どものこころを見つめて いわさきちひろ展	世界中でインターネットやAI技術が暮らしのなかに根づき、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化してきた。とりわけ日本では、技術の進歩や物質的な豊かさが喧伝される一方で、子どもの貧困や虐待など、子どもをめぐる深刻な状況や事件が伝えられない日はない。本展では、ちひろの絵とこどばを通して、改めて、ちひろが願った子どものしあわせと平和を見つめ直す。	10月29日～2021年1月31日	ちひろ美術館・東京
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション 日本の絵本の歩み 絵巻から絵本へ	当館のコレクションには世界の絵本画家コレクションとともに、絵本の歴史をたどれる資料がある。本展では、奈良時代の絵巻「絵因果経」まで遡ることのできる“物語る絵の歩み”と、明治から現代までの“子どもの本の歩み”とのふたつの視点から、日本の絵本の歩みを当館のコレクションで紹介する。	8月6日～10月25日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館コレクション 絵本の世界から飛びだして	ちひろ美術館コレクションには絵本の原画だけでなく、絵本画家たちがつくった立体作品も収蔵されている。ロシアのラチョフやポボフ、ボーランドのヴィルコン、イタリアのラバッチーニ、日本の長新太や荒井良二など、絵本で知られる画家たちが身近な素材を駆使して制作した人や動物や鳥、魚などの立体作品の数々を展示する。	10月29日～2021年1月31日	ちひろ美術館・東京
【企画展示】	没後10年 濑川康男 坦雲亭日乗—絵と物語の間(あわい)	絵本界の鬼才と呼ばれた画家・瀬川康男。1977年、東京から群馬県の北軽井沢に移り住み、植物の写生に没頭しながら、日々の所感や絵に関する思いを記した。1982年、長野県の青木村の古い大きな家に居を移し、「坦雲亭」と名付けたこの家で、自作の絵本や壮大な歴史絵本『絵巻平家物語』シリーズなどを生み出す。この時期から、「坦雲亭日乗」と題した日記を書き始めた。本展では、日記やノートに書かれたことを手がかりに、絵本原画、タブロー、植物写生などを展示し、瀬川康男の絵にかけた思いと人生に迫る。	3月1日～5月17日	ちひろ美術館・東京
	生誕110年 赤羽末吉展 絵本への一本道	赤羽末吉は1961年に『かさじぞう』を出版して以来、80歳で亡くなるまでの30年間に80冊を超える絵本を発表した。物語の確かな解釈と類まれな演出力、日本や中国の風土や伝統文化への深い造詣、格調高くかつ童心に届く詩情に富んだ絵画表現を持つ赤羽は、天性の絵本画家だった。本展では明治の終わりから平成の初めまでの、まさに日本の絵本が発芽し、大きく花開いていった時代に生きた赤羽がたどった絵本画家への道を、数々の資料や絵本、原画からひも解していく。	5月21日～8月2日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「瀬川康男 坦雲亭日乗—絵と物語の間」関連イベント 編集者が語る—坦雲亭で生まれた絵本	編集者として瀬川康男を担当し、坦雲亭をたびたび訪れていた川崎康男が、画家の坦雲亭での日々や絵本づくりについて語る。	4月26日	ちひろ美術館・東京
	「生誕110年 赤羽末吉展 絵本への一本道」関連講演会	評伝を執筆した赤羽茂乃が、赤羽末吉の人生について語る。	会期中	ちひろ美術館・東京
	「日本の絵本の歩み」展関連講演会	美術史家・美術評論家の山下裕二(明治学院大学教授)が、日本の美術史から見た絵本の歴史について講演する。 * 全国絵本美術館会議での講演会	会期中	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	いわさきちひろのひとり息子・松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語る。	各展覧会会期中1回	ちひろ美術館・東京

事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
【ギャラリートーク】	夏休み子どもギャラリートーク	夏休み期間中、小・中学生を対象としたギャラリートークを行う。	8月10日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説する。	毎月第1、3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等				
【いわさきちひろ展】	ちひろ いのちを見つめて	生涯子どもを描き続けたちひろは、平和な日常のなかで輝くいのちを見つめ続け、絵を通して、その尊さを訴えかけている。「世界中のこどもみんなに平和としあわせを」というちひろが残したことばは、今も切実に響く。本展では、ちひろの絵とことばを通して、ちひろが願った子どものしあわせと平和を見つめ直す。	3月1日～5月11日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの色のない色	「赤いと思えば赤く塗るし、紫だと思えば紫をつけた。空を黄色くすることもあれば、水を桃色に描いたりもする」と語っていたちひろは、目に見える通りに描くのではなく、心で感じた色を使って自由に描いた。本展では、ちひろが好んで使った「紫」や無限の色彩を秘める「黒」など、色に焦点をあて、ちひろの絵の魅力を紹介する。	5月15日～7月19日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ 子どもとあそび	子どもはあそびを通じて、自然のなかで感性を育み、友だちとの関わりのなかで社会性を学ぶなど、さまざまな体験を重ね成長していく。「子どもの肢体の魅力はかぎりない」と語ったちひろは、夢中になってあそぶ、躍動感あふれる子どもの姿をいきいきと描き出した。生きる楽しさや幼い日の記憶を呼び覚ますちひろの絵から、人間関係が希薄になり孤立を深める現代において、子ども時代のあそびの大切さを問いただす。	7月23日～10月5日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの雪月風花	四季折々の草花、風に散る花、夜空に浮かぶ名月——。自宅の庭で花を育てたり、自然豊かな黒姫高原の山荘での時間を楽しむなど、ちひろは自然の美しい風景と季節の移ろいに心をよせながら、生き生きとした子どもたちの姿を重ねて描き出した。本展では、四季への感性や、日本の伝統美への共感、独自な万葉集の表現などを通じて、ちひろの絵のなかに息づく“雪月風花”(風雅な感性)を探る。	10月9日～12月15日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ゆかりの品々や素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや生前を知る人たちの証言映像、ちひろの技法を拡大して見られるタッチパネル等により、ちひろの絵と人生、その人柄を伝えます。	通年	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室「トトちゃんの部屋」	『窓ぎわのトトちゃん』に登場する電車の教室の一部再現、7つの穴をのぞいて楽しむ「のぞき箱」の他、日々自由に参加できるワークショップなど、トトちゃんの世界を通じて子どもたちの目線で楽しむことのできる展示や活動を行う。	通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション ねずみとはりねずみの絵本展	2020年の干支であるねずみに注目し、コレクションのなかから世界の絵本画家たちが描いたねずみとはりねずみの作品を展示する。	3月1日～5月11日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション ふしぎな生き物展	「企画展 ショーン・タンの世界展」に合わせ、ふしぎな生き物に着目して、コレクションのなかから竜や河童などの伝説の生き物や、画家の想像力から生まれた魅力的な生き物などを描いた作品を紹介する。	5月15日～7月19日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション あそびの世界	あそびとは、人間が人間らしくあるために大切なものである。世界の絵本画家が描くさまざまなおそびを、コレクションより紹介する。	7月23日～10月5日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクションに見る雪・月・風・花	「ちひろの雪月風花」展に合わせ、コレクションのなかから世界の絵本画家たちが自然を描いた作品を、雪・月・風・花のテーマごとに紹介する。	10月9日～12月15日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション チェコとスロヴァキアの絵本	日本・チェコ交流100周年である2020年に、ちひろ美術館コレクションより、チェコとスロヴァキアの画家たちの作品を展示する。両国は、さまざまな歴史の流れに翻弄されながら、子どもの本に関して特別な文化を育んできた。今は亡くなった画家から現役で活躍する画家まで、計10名の作品を展示する。	10月9日～12月15日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	「死者の書」や時禱書、絵巻物から20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて、紹介する。	通年	安曇野ちひろ美術館
【企画展示】	企画展 田島征三展 『ふきまんぶく』—それから、そして今—	自然豊かだった東京都日の出村(現・日の出町)での生活体験をもとに描かれ、「大地の、生命の源としての土の物語」を語る絵本『ふきまんぶく』。本展では、同書を起点とし、日の出町のゴミ処分場建設反対運動の活動をもとに制作された『やまからにげてきた・ゴミをぼいぼい』、日・中・韓平和絵本プロジェクトの作品『ぼくのこえがきこえますか』、現在制作中の絵本『つかました』のための原画やダブローを展示し、今年80歳を迎える田島征三のそれから、そして今を紹介する。	3月1日～5月11日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
【企画展示】	企画展 ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ	オーストラリアの画家・映像作家、ショーン・タンは1999年に刊行した初めての絵本 <i>The Lost Thing</i> (邦題『ロストシング』)を元に2010年に短篇アニメーション映画を発表し、アカデミー賞の短篇部門の賞を受賞した。タンが手がけたテキストのないモノクロの絵本『アライバル』(<i>The Arrival</i>)は、各国語に翻訳されて、日本でも、その独特な世界観と表現方法で、熱狂的な大人のファンを獲得した。本展は、タンの全面的な協力のもとに開催される大規模な個展となる。	5月15日～7月19日	安曇野ちひろ美術館
	企画展 田島征彦『祇園祭』展	田島征彦の絵本処女作『祇園祭』は1976年に出版され、同年当時のチェコスロヴァキアで開催されていたブラティスラヴァ世界絵本原画展(通称BIB、現在も続く)にて金牌を受賞した。本展では、田島の絵本の原点ともいえる、『祇園祭』に焦点をあて、原画全点とともに資料や型紙、その後に発表した作品も一部あわせて展示し、作品のもつダイナミックな力に迫る。	7月23日～10月5日	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」関連 田島征三 アーティストトーク	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」に関連し、作家本人が、展示されている作品や活動について語る。	5月6日	安曇野ちひろ美術館
	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」関連 田島征三 & ふき 親子による『ふきまんぶく』トークライブ	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」に関連し、田島征三と娘の大澤ふきが、『ふきまんぶく』制作のエピソードや当時の暮らし、作品への思いなどを語る。二部では、大澤ふきによる歌のライブを行う。(松川村図書館と共に)	5月6日	松川村 すずの音ホール
	企画展「ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」関連 スライドトーク	企画展「ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」に関連し、展示担当者がショーン・タンの作品世界の魅力を語る。	6月7日	安曇野ちひろ美術館
	田島征彦 アーティストトークと読み聞かせ	企画展「田島征彦『祇園祭』展」に関連し、作家本人が、展示されている作品について語り、自作絵本を朗読する。	7月26日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	いわさきちひろのひとり息子・松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語る。	随時	安曇野ちひろ美術館
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説する。	毎月第2、4土曜日	安曇野ちひろ美術館
	ガイドツアー	開催中の各展示の見どころや美術館の楽しみ方を、作品を見ながら普及担当や中学生、高校生が解説する。	随時	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等				
【展覧会】	いわさきちひろ展—中谷泰を師として	1942年、ちひろは中谷泰の文展の作品に感銘を受けて、中谷の元を訪れ油絵の指導を受けた。師弟関係はわずか1年ほどだったが、物語や人々の生活に寄り添う姿勢などに、ふたりの画家に共通する部分が見られる。本展では、両者の結びつきを作品や資料をもとにたどり、これまであまり知られてこなかった側面に光をあてる。	7月18日～8月30日	三重県立美術館(三重県津市)
	ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	ピエゾグラフによるいわさきちひろ展を、開催希望自治体、団体、施設と協力して行う。合わせてギャラリートークや講演会、水彩技法ワークショップなども実施する。	通年 ①9月5日～10月11日 ②第2会期予定	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市) MIZKAN MUSEUM(愛知県半田市)
	生誕110年・没後30年 絵本画家・赤羽末吉展	日本の絵本の可能性を大きく切り開いた赤羽末吉。22歳で旧満州(中国東北部)へ渡り日本画家として活躍する一方、その風土が育んだ市井の人々の暮らしに深い関心をよせた。引き揚げ後、50歳のときに手掛けた『かさじぞう』でデビューしてからは、ふたつの「郷土」の美しさを絵本に描き続けた。本展では当館コレクションの絵本原画やスケッチ、多数の資料等約200点を展示し、赤羽末吉の画業の全体像を紹介する。	6月6日～7月12日 10月3日～11月29日	酒田市美術館(山形県酒田市) 静岡市美術館(静岡県静岡市)
	生誕110年 赤羽末吉展 スホの草原にかける虹	『スホの白い馬』を中心に、赤羽末吉の中国とモンゴルの絵本を、ピエゾグラフで展示する。	5月23日～7月19日	教文館ウェンライトホール(東京都中央区)
【ギャラリートーク等】	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク等	開催中の展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説するギャラリートーク、いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ等を開催する。	随時	

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	時代のエポックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本原画の収集を進める。	通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	時代のエポックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進める。	通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持つ、魅力的な絵本の収集を進める。コレクション画家の手がけた絵本資料の収集を進める。	通年	両館

事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品整理を進める。	通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	いわさきちひろと世界の絵本画家の作品・資料のデジタル・アーカイブスを、災害時対応にも備えつつ、進める。	通年	両館
	作品・資料の修復	必要に応じて作品や資料の修復を行う。	随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	両館で開催する展示、ならびに他館と提携して行う展覧会において、コレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進める。 特に瀬川康男、赤羽末吉、田島征三、田島征彦、チェコやスロヴァキアの画家等の作品について展覧会とあわせて調査を進める。	通年	両館
	財団資料全般のアーカイブス	ちひろの作品や遺品などの一次資料、一次資料を基に製作された印刷物等の二次資料、その一次・二次資料にまつわる資料等を網羅的に集約、管理するためのアーカイブス、ならびに検索システムの構築を3年計画で進める。2020年度は、調査したもののが整理を行うとともに、作品と図書の画像DBを新システムに移行する。	3年間	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	安曇野の歴史展示とともに、初めて東京館で行う絵本の歴史展示等に向けて、絵本とイラストレーションの歴史に関する資料の整理、調査・研究を進める。	通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	ショーン・タンや赤羽末吉、田島征三、田島征彦、新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について、外部の研究者とも連携しながら調査・研究を進める。	通年	両館
	研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、図録等を通じて公開する。また、それら図録等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈し、研究の一助としてもらう。	通年	両館
	研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップロードし、国内外にむけて発信していく。	通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(年4回)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開していく。	通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	ワークショップ ちひろの水彩技法体験	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行う。 * 文化庁:令和2年度地域と共に働いた博物館創造活動支援事業(予定)	8月17~19日、2021年1月2~3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催する(講師:服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)。* 文化庁:令和2年度地域と共に働いた博物館創造活動支援事業(予定)	各展覧会会期中1回(年4回)	ちひろ美術館・東京
	あかちゃんのための鑑賞会	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催する(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。* 文化庁:令和2年度地域と共に働いた博物館創造活動支援事業(予定)	年2回	ちひろ美術館・東京
	子どものための鑑賞会	3歳児~小学1年生とその保護者を対象にした、幼児~児童のための鑑賞会を開催する(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。* 文化庁:令和2年度地域と共に働いた博物館創造活動支援事業(予定)	年2回	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「—今日から実践できる— 子どもに気持ちが伝わる話し方」	「親業訓練」を通して、親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ(講師:田中満智子・親業訓練協会インストラクター)。 * 文化庁:令和2年度地域と共に働いた博物館創造活動支援事業(予定)	秋	ちひろ美術館・東京
	「こんにちは！窓ぎわのトトちゃん」展関連企画 ワークショップ	日々自由に参加できるワークショップなどを通じて、トトちゃんの世界を子どもたちの目線で楽しむことのできる活動を行う。	会期中	ちひろ美術館・東京
	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」および企画展「田島征彦『祇園祭』展」関連 映画『絵の中のぼくの村』上映会	企画展「田島征三展『ふきまんぶく』-それから、そして、今-」および企画展「田島征彦『祇園祭』展」に関連し、田島征三と双子である田島征彦のふたりの原点ともいえる、幼少期の思い出が綴られた本『絵の中のぼくの村』を原作とした映画(国際ベルリン賞銀熊賞受賞)を上映する。	4月26日、9月6日	安曇野ちひろ美術館
	企画展「ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」関連 ワークショップ「どこにもいない生き物を描こう！」	企画展「ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ」に関連し、見たことがある身近なものを組み合わせて、この世界のどこにもいないヘンテコな「生き物」を描くワークショップを常時開催する。	会期中	安曇野ちひろ美術館
	ワークショップ ちひろの水彩技法体験	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行う。	8月1日~16日	安曇野ちひろ美術館
	あかちゃんと保護者のための鑑賞会	「ベビーカーでお出かけしよう！」と題して、乳幼児とその保護者を対象に、子どもといっしょに美術館を楽しめる、ファーストミュージアムデーを開催する。展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読み合い、ふれあい遊びも行う。長野県の「いい育児の日」の11月19日にも開催する。	4月4日、6月6日、10月3日、11月19日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
ワークショップ・講座の開催	ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ	安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、ちひろの絵が数多く掲載されている『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催する。	随時	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館
	ちひろ忌	ちひろの命日にあわせてギャラリートーク等を行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どものしあわせと平和を願ったちひろの思いを、来館者ともに考える機会とする。	8月8日	両館
学校との提携活動	地元中学校との提携活動—中学生ボランティア	松川中学校と連携し、夏休み期間中、中学生ボランティアを育成し、来館者を対象にした、当館での体験ワークショップ、ガイドツアー、絵本の読み聞かせ、朗読会等の活動を行なう。	8月1日～16日	安曇野ちひろ美術館
	出前授業、出前講座	ちひろの画業や絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業、出前講座を、学校等に出向いて実施する。	随時	両館
学校との提携活動	スクールミュージアム	長野県内の希望校を対象に、展覧会のつくり方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーターの育成を行う。	随時	安曇野ちひろ美術館
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行う。	随時	両館
	職場体験実習の受入	練馬区近辺、松川村近辺の中學・高等学校からの職場体験実習を受入れ、美術館業務を体験してもらい、博学連携の活動とする。	随時	両館
	学芸員実習、インターンシップ生の受入	学芸員実習希望者の受入と、大学などからのインターンシップ生の受入を行う。	随時	両館

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供する。	通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション画家・企画展画家・その他の世界の絵本画家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、HP等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしの中で身近に絵本を楽しめるよう支援していく。	通年	両館
読み聞かせ会	おはなしの会(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催する。また同様に、学校・保育園等からの団体鑑賞に際して、読み聞かせを行っていく。	随時	両館
	原語のおはなしの会(絵本の読み聞かせ)	コレクション画家の絵本の原語での読み聞かせ会を開催する。また各国の文化や暮らしなどを紹介する。	随時	安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展等の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施する。	随時	両館
	希望する施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出す。	随時	両館
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの実施	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設け、求めに応じて、院内での読み聞かせ会、水彩技法体験ワークショップ等を実施する。	随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内子どもホスピス「もみじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

オ 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ	インドネシア等アジアにおける『窓ぎわのトットちゃん』を媒体とした展覧会や普及事業	東南アジアでも人気の高い『窓ぎわのトットちゃん』に焦点をあて、ピエゾグラフや資料を使った展示や講演会、ワークショップなどを通し、ちひろとちひろ美術館の普及を行う準備を進めていく。	随時	インドネシア、中国など
海外からの研修受入と交流	海外の絵本関係者の研修・交流	海外の絵本画家や編集者など絵本関係者を対象に、求めに応じて絵本に関する研修を受け入れる。あわせて地元の子どもたちとの交際交流を行い、相互理解、絵本文化の普及・発展を促進する。	随時	両館

事業	個別事業名	実施内容	実施時期	実施場所
海外からの研修受入と交流	アジアや世界の絵本関係者の視察・調査等の受入	世界初の絵本美術館として、アジアや世界の絵本の図書館、美術館関係者に、当館の展示や学芸的な経験、運営や理念等を紹介、共有すべく、視察の受入れを行う。	随時	両館
	館内情報の多言語化	さまざまな国からの来館者に対応すべく、館や展示の紹介等を多言語(7言語)で行う。	随時	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY (International Board on Books for Young People)や、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、絵本文化の発展のための相互協力に努める。	随時	両館
	絵本美術館ネットワーク設立のための情報収集	国を超えた絵本美術館ネットワーク作りのために、調査を行い、情報交換を行っていく。	随時	両館
海外の関係機関とのネットワーク	アジア子どものコンテンツフェスティバル(AFCC)との連携	シンガポールで毎年開催されるAFCC (Asian Festival of Children's Content) の10周年に併せ、シンガポール・ブックカウンシルの要請に応え、日本のすぐれた絵本文化を紹介し、アジアへの発信を行う。	5月	シンガポール
	海外の図書館等へちひろや日本の絵本画家の絵本の普及	海外の国際交流基金や公立図書館等に、ちひろや日本の絵本画家の絵本を紹介し、普及に努める。	随時	両館

力 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かして研究や活動を支援していく。	随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援していく。	随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、配布するとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して鑑賞を助ける。	随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に隨時対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせの方法等についてアドバイスを行う等、支援をしていく。	随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援していく。	随時	両館
	展覧会鑑賞のバリアフリー化	東京館では、2019年に導入したデジタルガイドのコンテンツを活用し、視覚・聴覚障害の方々には、スマートフォンからの音声や文字情報による解説を提供し、利用者のニーズに応えていく。安曇野館では、東京館の経験を活かし、2021年度には導入できるよう準備をすすめる。両館ともに、障害者手帳提示の方と介添え1名までは入館料を减免するなど、様々なニーズを持つ来館者の展覧会鑑賞を支援するためのバリアフリー化を進める。	随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の子育て支援団体やお母さん方のグループ等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援していく。	随時	両館

収1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行う。	通年	両館
-------------------------	---------------	--	----	----